

専門分野

【成人看護学の考え方】

成人看護の対象である成人期は、青年期・壮年期・向老期と長期にわたり、社会的責任・役割が大きい段階である。発達段階の特徴として、成人期にある対象は、自立かつ自律した存在、意思決定できる存在であり、次世代の人々をはぐくみ、老年や小児の生活を支えるという課題を持っている。現在、健康意識の高まりや医療の高度化、在院日数の短縮など、成人の健康問題を取り巻く環境は変化している。たとえ、健康が障害されても、生活者としてどのように病気と家庭生活や社会生活と折り合いをつけて自分らしく生きていくかというセルフマネジメントが必要であると考え。このような対象に対し、看護者は対象の多様な状態に合わせ、生活スタイルや価値観を踏まえ、それぞれに合わせたQOLを追求していく視点が必要であり、対象の状況を理解し対象のニーズに沿った対応も必要である。そして、成人期にある対象の気持ちや思い、社会的役割や立場、生活背景などの対象理解をした上で、その人らしさを尊重し、対象の健康問題から必要な看護を実践していくことが求められる。

以上を踏まえ、学習内容は「成人看護学概論」で、成人期にある対象の理解と健康問題の概要を学ぶ。「成人保健」で成人期の健康上の課題や特徴から健康の保持増進、疾病予防を踏まえ、セルフマネジメント、危機的状況にある対象の看護を学ぶ。「成人看護援助論Ⅰ」では、周手術期にある対象と終末期にある対象の看護を学ぶ。ここでは、急性期の中でも臨地実習で関わることの多い周手術期にある対象に絞り、患者と家族の特徴を理解して看護を展開する力と、終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族の特徴を理解して看護を展開する力を培う内容とする。「成人看護援助論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、各機能障害をもつ対象の特徴や起こりやすい問題と多様な健康状態・障害に対するアセスメント力（症状や疾患及び検査・治療に関する理解、健康障害が生活に及ぼす影響）及び看護実践力を培うために必要な基本的な看護を学ぶ。更に、各機能障害をもつ対象の急性期・回復期・慢性期の経過別看護も学ぶ内容とする。また、臨地実習で関わることの多い各機能障害をもつ対象の事例を用いて看護過程を展開することで、看護を実践できる基礎的能力を培う内容とした。

【目的】

成人の看護に必要な基本的な知識・技術・態度を理解し、青年期・壮年期・向老期と長期にわたる成人期にある対象の特徴を踏まえ、健康水準に応じた看護実践を行う基本的能力を修得する。

【目標】

1. 成人各期の特徴と保健問題を捉え、健康の保持・増進・疾病予防のための看護の役割を理解する
2. 成人期の各機能障害をもつ対象の特徴や起こりやすい問題を理解する
3. 成人期の各機能障害をもつ対象の看護の目的・役割を理解する
4. 成人期の各機能障害をもつ対象の基本的な看護を理解する
5. 成人期の健康上の問題を踏まえ、健康水準に応じた看護過程を展開する能力を習得する

【構成及び計画】

講義

科目	単位数	時間数	学年別計画時期		
			1 年	2 年	3 年
成人看護学概論	1	15	○		
成人保健	1	30	○		
成人看護援助論Ⅰ	1	30		○	
成人看護援助論Ⅱ	2	45		○	
成人看護援助論Ⅲ	2	45		○	
成人看護援助論Ⅳ	1	30		○	
合計	8	195	2 (45)	6 (150)	

専門分野

科目名		成人看護学概論	開講時期	単位数	時間数
			1 年次後期	1	15
担当教員		専任教員			
科目目標		1. 成人看護学の対象である大人について成人期の特性が理解できる 2. 成人期にある人が心身ともに成長・成熟し、社会において、大人になっていく過程について生涯発達の視点から理解できる 3. 成人の健康問題の特徴について理解する 4. セクシュアリティの特徴について生物学的・心理・社会的側面から理解する 5. 成人の生活を通して働くこと、生活を営むことが人生を歩んでいる生活者として理解できる			
DP との関連性		3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	生涯発達の特徴 各発達段階の特徴			講義	
2	青年期・壮年期・中年期・向老期の特徴			グループワーク	
3	成人期の生活・仕事・家族			講義	
4	健康バランスの構成要因 健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防			講義	
5	生活行動がもたらす健康問題とその予防			グループワーク	
6	生活行動がもたらす健康問題とその予防 グループワーク発表			グループワーク	
7	生活行動がもたらす健康問題とその予防のまとめ			講義	
8	筆記試験(45 分)				
評価方法		筆記試験 100 点			
教科書		成人看護学総論 医学書院			
実務経験		本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	成人保健	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	成人各期における保健問題を捉え、健康の保持・増進・疾病予防のために保健活動と看護の役割を理解する			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	大人の生活からとらえる健康 わが国の特徴～少子高齢化、家族、婚姻、経済、死亡動向			講義
2	生活習慣病の予防と対策、セルフケア 自殺・職業性疾病・作業関連疾患の予防と対応、心の病			講義
3	生活と健康をまもりはぐくむシステム 自殺対策基本法、自殺総合対策大綱、健康増進法、がん対策基本法特定健康診査、特定保健指導等の流れ			講義
4	医療にかかわる対策～がん、自殺、高齢者、DV、STD、CKD、障害者			講義
5	ヘルスプロモーションと看護 ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動			講義
6	成人学習理論			講義
7	生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 大人の健康行動のとらえ方、行動変容を促進する看護アプローチ			講義
8	症状別看護、疾患別・治療別看護			講義
9	健康レベル・経過別看護、意志決定支援			講義
10	ストレスとその対処、治療・療養行動に伴うストレス			講義
11	コーピング強化のための援助			講義
12	慢性病患者の理解 慢性病との共存を支える看護、セルフケア			講義
13	セルフケアと成人期の特徴と看護、セルフマネジメント 病みの軌跡理論の理解			講義
14	障害がある人とリハビリテーション 障害がある人とその生活を支援する看護 ボディイメージの変化に対する看護技術、障害受容のプロセス			講義
15	退院支援、多職種連携の必要性			講義
評価方法	筆記試験			
教科書	成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	成人看護援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 手術療法を受ける対象と必要な看護が理解できる 2. 人生の最期の時にある人の健康生活を理解するために、人にとっての死、全人的痛み、死とともに生きることについて理解できる 3. 緩和ケアの歴史および現状、各種ケアについて理解できる 4. 終末期に関わる患者と支える家族に対するケアの必要性と援助の方法について理解できる			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	周手術期看護の目的と役割 手術療法と生体反応、手術前の具体的援助			講義
2	手術後の回復を促進するための看護(ドレーン管理を含む) 術後合併症の発症機序 起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応、ドレーン管理 自己管理に向けた援助、在宅療養者への支援			講義
3	腹腔鏡手術を受ける患者の看護(胆石症の内容も含む)			講義
4	乳房の手術を受ける患者の看護			講義
5	手術療法を受ける術中の看護、看護の目的			講義
6	手術中の看護の要点、手術室における看護の展開			講義
7	手術室の環境管理			講義
8	終末期医療の歴史と現状 3つの概念、死の概念、全人的苦痛、死後の変化、エンゼルケア、葬送儀礼			講義
9	緩和の歴史、チーム医療 全人的苦痛へのアプローチ: 身体的ケア			講義
10	全人的苦痛へのアプローチ: 精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア			講義
11	がん看護、終末期の治療選択			講義
12	家族ケア、家族の発達課題			講義
13	グリーフケア			講義
14	死生観			講義
15	筆記試験(45 分) 2 回			
評価方法	筆記試験 周手術期 50% 終末期 50%を総合して評価する			
教科書	臨床外科総論 医学書院 臨床外科各論 医学書院			
実務経験	本科目は保健師・看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	成人看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	2	45
科目目標	1. 呼吸器・循環器疾患を持つ対象の特徴と起こりやすい問題を理解できる 2. 呼吸器・循環器疾患を持つ対象の看護の目的・役割と経過に応じた基本的看護を理解できる 3. 呼吸器・循環器疾患をもつ対象の特徴・問題を踏まえ、看護過程を展開できる 4. 呼吸器・循環器疾患の代表的な検査治療を受ける対象の看護が理解できる 5. 代表的な呼吸器・循環器疾患の病態生理を踏まえ、各疾患をもつ対象の看護が理解できる			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	担当講師・配点	授業方法	
1	医療の動向と看護、呼吸器疾患患者の特徴、起こりやすい問題 看護の目的・役割、経過別看護	専任教員 呼吸器 40 点	講義	
2	呼吸器系のフィジカルアセスメント、呼吸器に障害をもつ対象の アセスメントの視点		講義・演習	
3	呼吸器系の症状に対する看護(咳嗽・呼吸困難・喀痰・喀血・胸 水)		講義	
4	呼吸器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①		講義 グループワーク	
5	呼吸器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②		講義 グループワーク	
6	呼吸器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③		講義 グループワーク	
7	呼吸器の検査を受ける患者の看護 動脈血液ガス分析の検査、気管支鏡検査	非常勤講師 呼吸器 60 点	講義	
8	呼吸器の治療を受ける患者の看護 胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、人工呼吸器		講義	
9	疾患を持つ患者の看護 炎症性疾患(肺炎・気管支炎・胸膜炎)、肺結核患者の看護		講義	
10	疾患を持つ患者の看護 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患＜COPD＞		講義	
11	疾患を持つ患者の看護 気胸、肺がん		講義	
12	医療の動向と看護、循環器疾患患者の特徴、起こりやすい問題 看護の目的・役割、経過別看護	専任教員 循環器 40 点	講義	
13	循環器系のフィジカルアセスメント、循環器に障害をもつ対象の アセスメントの視点		講義・演習	
14	循環器系の症状に対する看護(胸痛・動悸・不整脈・チアノーゼ・ ショック)		講義	

15	循環器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①		講義 グループワーク
16	循環器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②		講義 グループワーク
17	循環器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③		講義 グループワーク
18	循環器の検査を受ける患者の看護 心臓カテーテル検査、心電図検査、血行動態モニタリング、ABI・CVP、心エコー 循環器の治療を受ける患者の看護 心臓カテーテル治療	非常勤講師 循環器 60 点	講義
19	疾患をもつ患者の看護 虚血性心疾患患者の看護		講義
20	疾患をもつ患者の看護 心不全		講義
21	疾患をもつ患者の看護 不整脈		講義
22	疾患をもつ患者の看護 弁膜症、動脈系疾患		講義
23	筆記試験		
評価方法	呼吸器 50% 循環器 50%の試験を総合して評価する		
教科書	呼吸器 医学書院 循環器 医学書院		
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である		

専門分野

科目名	成人看護援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	2	45
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 消化器・腎・泌尿器・内分泌代謝疾患を持つ対象の特徴と起こりやすい問題を理解できる 2. 消化器・腎・泌尿器・内分泌代謝疾患を持つ対象の看護の目的・役割と経過に応じた基本的看護を理解できる 3. 消化器疾患をもつ対象の特徴・問題を踏まえ、看護過程を展開できる 4. 代表的な消化器・腎・泌尿器・内分泌代謝疾患の病態生理を踏まえ、各疾患をもつ対象の看護が理解できる			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	医療の動向と看護、消化器疾患患者の特徴 起こりやすい問題、看護の目的・役割、経過別看護			講義
2	消化器系のフィジカルアセスメント、消化器に障害をもつ対象のアセスメントの視点 消化器系の症状に対する看護(悪心・嘔吐・下痢・便秘)			講義・演習
3	消化器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①			講義 グループワーク
4	消化器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②			講義 グループワーク
5	消化器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③			講義 グループワーク
6	消化器の検査を受ける患者の看護 造影検査、内視鏡検査、肝生検、腹部超音波			講義
7	消化器の治療を受ける患者の看護 インターフェロン療法、食道静脈瘤内視鏡、肝動脈塞栓術 手術療法、胆道・胆嚢ドレナージ(閉塞性黄疸の内容含む)			講義
8	疾患を持つ患者の看護 上部消化管腫瘍(食道癌・胃癌)、潰瘍性疾患(胃・十二指腸潰瘍) 消化器系の症状に対する看護(吐血・下血)			講義
9	疾患を持つ患者の看護 膵疾患(膵炎、膵臓がん)、肝疾患(肝炎、肝硬変、肝がん)			講義
10	消化器の治療を受ける患者の看護 胃婁・腸瘻増設			講義
11	消化器の治療を受ける患者の看護 下部消化管腫瘍(大腸がん・結腸がん)、ストーマ増設患者の看護			講義
12	腎疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割			講義
13	腎疾患の治療を受ける患者の看護 急性期血液濾過透析、血液透析、腹膜透析、腎移植			講義

14	疾患を持つ患者の看護 急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群	講義
15	泌尿器疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割 泌尿器系の症状に対する看護(乏尿・無尿・頻尿・多尿・頻尿・残尿・尿閉) 泌尿器の検査を受ける患者の看護 尿流動体検査、残尿測定、膀胱鏡	講義
16	泌尿器の治療を受ける患者の看護 カテーテル留置、ホルモン療法	講義
17	泌尿器の治療を受ける患者の看護 膀胱切除術、前立腺切除術	講義
18	内分泌代謝疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割、経過別看護	講義
19	内分泌代謝の検査を受ける患者の看護 糖負荷試験、血糖自己測定	講義
20	内分泌代謝の治療を受ける患者の看護 インスリン補充療法、糖尿病経口薬、食事・運動療法 内分泌代謝の疾患をもつ患者の看護 糖尿病(1型・2型)	講義
21	内分泌代謝の疾患をもつ患者の看護 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)	講義
22	内分泌代謝の疾患をもつ患者の看護 高尿酸血症、脂質異常症	講義
23	筆記試験	
評価方法	消化器 50% 腎・泌尿器 30% 内分泌代謝 20%の試験を総合して評価する	
教科書	消化器 医学書院 腎・泌尿器 医学書院 内分泌・代謝 医学書院	
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である	

専門分野

科目名	成人看護援助論Ⅳ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 運動器・脳神経疾患を持つ対象の特徴と起こりやすい問題を理解できる 2. 運動器・脳神経疾患を持つ対象の看護の目的・役割と経過に応じた基本的看護を理解できる 3. 運動器疾患をもつ対象の特徴・問題を踏まえ、看護過程を展開できる 4. 運動器・脳神経疾患の代表的な検査治療を受ける対象の看護が理解できる 5. 代表的な運動器・脳神経疾患の病態生理を踏まえ、各疾患をもつ対象の看護が理解できる			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	医療の動向と看護、運動器疾患患者の特徴 起こりやすい問題			講義
2	看護の目的・役割、経過別看護			講義
3	運動器系のフィジカルアセスメント 運動器に障害をもつ対象のアセスメントの視点 運動器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開①			講義 グループワーク
4	運動器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開②			講義 グループワーク
5	運動器に障害をもつ対象の事例を用いた看護過程の展開③			講義 グループワーク
6	運動器の検査を受ける患者の看護（検査時の介助方法含む） 脊髄造影検査、椎間板造影検査、膝関節鏡検査、筋生検			講義
7	運動器の治療を受ける患者の看護 ギプス固定、牽引法、人工関節置換術			講義
8	疾患を持つ患者の看護 骨粗鬆症患者、大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折、脊椎圧迫骨折			講義
9	疾患を持つ患者の看護 変形性関節症、腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）			講義
10	疾患を持つ患者の看護 関節リウマチ、四肢切断後、脊髄損傷			講義
11	脳神経疾患患者の特徴、起こりやすい問題、看護の目的・役割、経過別看護 脳神経系のフィジカルアセスメント			講義
12	脳神経の検査を受ける患者の看護 脳血管造影 脳神経の治療を受ける患者の看護 開頭術・穿頭術、脳室ドレナージ術、低体温療法			講義
13	脳神経疾患をもつ患者の看護 くも膜下出血・脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷			講義

14	脳神経疾患をもつ患者の看護 重症筋無力症、ギラン・バレー症候群	講義
15	脳神経疾患をもつ患者の看護 筋萎縮性側索硬化症＜ALS＞、パーキンソン病	講義
評価方法	筆記試験 運動器 60% 脳神経 40%の試験を総合して評価する	
教科書	運動器 医学書院 脳・神経 医学書院	
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である	